

令和7（2025）年度2月「歳時記」

2月は、厳しい寒さの底にありながら、春の息吹がほのかに立ちのぼる季節です。梅は凜とした香りを放ち、紅白の花が枝先にほころび、冬空に静かな彩りを添えます。鳥たちは日脚の伸びを感じてさえずりを増し、川辺では早春の光を受けて水鳥が羽を休めています。風は冷たさの中に柔らかさを含み、季節の移ろいを告げるように頬をかすめ、月は澄み切った夜空に冴え冴えと輝き、静寂の美を際立たせます。自然が少しずつ動き出す「如月」は、やがて訪れる春への期待を胸に抱かせる時期でもあります。そうして心は、凧いだ海に舞う一陣の風がひらりと扇を揺らした、平家物語「扇の的」の場面へと導かれていきます。

<古文>

ころは二月十八日の酉の刻ばかりのことなるに、をりふし北風激しくて、磯打つ波も高かりけり。舟は、揺り上げ揺りすゑ漂へば、扇もくしに定まらずひらめいたり。沖には平家、舟を一面に並べて見物す。陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る。いづれもいづれも晴れならずといふことぞなき。与一目をふさいで、

「南無八幡大菩薩、我が国の神明、日光の権現、宇都宮、那須の湯泉大明神、願はくは、あの扇の真ん中射させてたばせたまへ。これを射損するものならば、弓切り折り自害して、人に二度面を向かふべからず。いま一度本国へ迎へんとおぼしめさば、この矢はづさせたまふな。」

と心のうちに祈念して、目を見開いたれば、風も少し吹き弱り、扇も射よげにぞなうたりける。

与一、かぶらを取つてつがひ、よつぴいてひやうど放つ。小兵といふぢやう、十二束三伏、弓は強し、浦響くほど長鳴りして、あやまたず扇の要ぎは一寸ばかりおいて、ひいふつとぞ射切つたる。かぶらは海へ入りければ、扇は空へぞ上がりける。しばしは虚空にひらめきけるが、春風に一もみ二もみもまれて、海へさつとぞ散つたりける。夕日のかかやいたるに、みな紅の扇の日出だした

るが、白波の上に漂ひ、浮きぬしづみぬ揺られければ、沖には平家、ふなばたをたたいて感じたり、陸には源氏、えびらをたたいてどよめきけり。

<口語（現代語訳）>

時は二月十八日、午後六時頃のことであったが、折から北風が激しく吹いて、岸を打つ波も高かった。舟は、揺り上げられ揺り落とされ上下に漂っているの
で、さおの先の扇もそれにつれて動きを止めず、ひらひらと揺れている。沖には平家が、舟を海上一面に並べて見物している。陸では源氏が、馬のくつわを並べてこれを見守っている。どちらを見ても、まことに晴れがましくないということはない。与一は目を閉じて、

「南無八幡大菩薩、我が故郷の神々の、日光の権現、宇都宮大明神、那須の湯泉大明神、願わくは、あの扇の真ん中を射させてください。これを射損じれば、弓を折り、自害して、再び人に顔を合わせるつもりはありません。いま一度故郷へ帰そうとお思いでしたら、この矢を外させないてください。」

と心に念じながら、目をかっと見開くと、風も少し弱まり、的の扇も（揺れが静まって）射やすくなっていたのだった。

与一は、かぶら矢を取ってつがえ、十分に引き絞ってひょうと放った。小柄なので、矢は十二束三伏だが、弓は強い、かぶら矢は、浦一帯に鳴り響くほど長いなりを立てて、誤ることなく扇の要から一寸ほど離れた所をひいふつと射切った。かぶら矢は海へ落ち、扇は空へと舞い上がった。しばしの間空に舞っていたが、春風に一もみ二もみもまれて、海へさっと散り落ちた。夕日が輝く中に、金の日輪を描いた真っ赤な扇が白い波の上に漂って、浮きつしづみつ揺れているのを、沖では平家が、舟端をたたいて感嘆し、陸では源氏が、えびらをたたいてはやし立てた。

情景描写の迫力と緊張感が見事で、与一の祈りから放射の瞬間、扇が舞い落ちるまでの流れが鮮やかに心に迫ります。平家、源氏双方の様子も臨場感を高め、名場面としての魅力が凝縮されています。

皆さんは、どのような情景を心のキャンバスに描きましたか。そして、登場

じんぶつ げんどう あらわ みる かんが かんが かんが とら
人物の言動に表れたものの見方や考え方をいかに捉えられたでしょうか。

れんしゅうもんだい みな
それでは練習問題です。皆さんぜひチャレンジしてみてください。

れんしゅうもんだい
＊練習問題

- 1 なみか せんぶ くが げんじ なら み ついく
波下線部「陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る。」と対句になっ
ている部分を、古文中から抜き出して書きましょう。
- 2 おうぎ い よいち つよ かくご あらわ いちぶん こぶんちゅう
扇を射ることへの与一の強い覚悟が表れている一文を、古文中の
与一の言葉から抜き出し、初めの五字を書きましょう。
- 3 なみか せんぶ ひょうど ぎおんご まと や い き おと あらわ
波下線部「ひやうど」は擬音語ですが、的を矢が射切った音を表して
いる擬音語を、古文中から四字で抜き出して書きましょう。
- 4 なみか せんぶ ち ち なん こぶんちゅう
波下線部「散つたりける」とありますが、散ったのは何ですか。古文中
から一字で抜き出して書きましょう。
- 5 うみ お おうぎ ようす しきさい たいひ いんしょうてき えが ぶんぶん
海に落ちた扇の様子が、色彩の対比で印象的に描かれている部分を
四十六字で抜き出し、初めの五字を書きましょう。

かいとうれい
＜解答例＞

- 1 おき へいけ らね いちめん なら けんぶつ
沖には平家、舟を一面に並べて見物す。
- 2 これを射損
- 3 ひいふう
- 4 おうぎ
扇
- 5 ゆうひ
夕日のかか

あ き おおたちょうきょういくいいんかい きょういくちょう おおの まさと
安芸太田町教育委員会 教育長 大野 正人